

# 第10回「寿都町対話の場」開催（5月27日）

## 国（資源エネルギー庁）による、エネルギー政策について講話を実施



講師：経済産業省 資源エネルギー庁

電力・ガス事業部

放射性廃棄物対策課 下堀 友数 課長

### <お話のポイント>

#### ◎国内外におけるエネルギーの動向

欧米は化石燃料への依存を低減させ、クリーンエネルギーへの移行を加速。こうした中、日本でも、ロシア・ウクライナ問題や国内の電力需給ひっ迫などを踏まえ、エネルギーの安定供給の確保に万全を期し、脱炭素の取組を加速させることを政策の方向性とした。

#### ◎原子力発電の現状とこれから

東京電力の福島第一原子力発電所の事故への反省を出発点として、安全性をすべてに優先する。世界で最も厳しい水準の規制基準に適合した原子力発電所については再稼働を進める。

#### ◎核燃料サイクルの確立を目指す理由とは

使用済燃料の「再処理」による、高レベル放射性廃棄物の減量や、資源の有効利用などの観点から、核燃料サイクルの早期確立を目指す。

#### ◎国による最終処分についての理解活動の推進

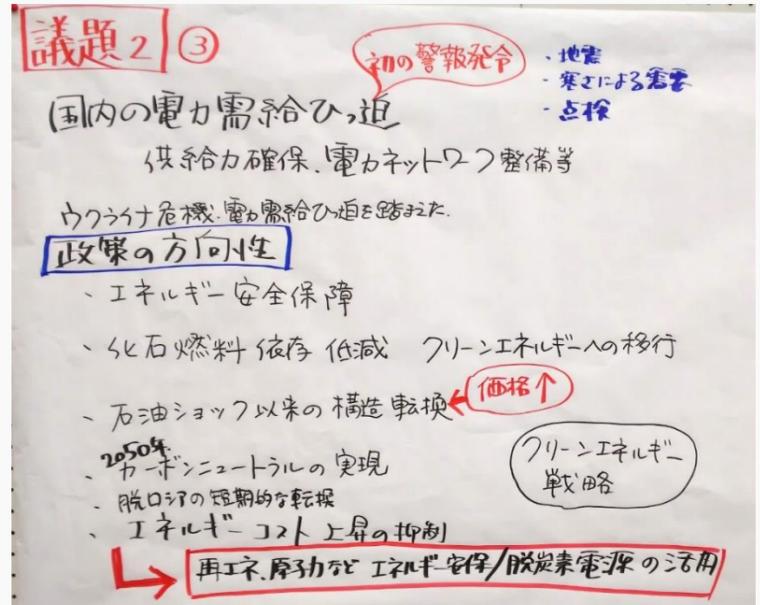
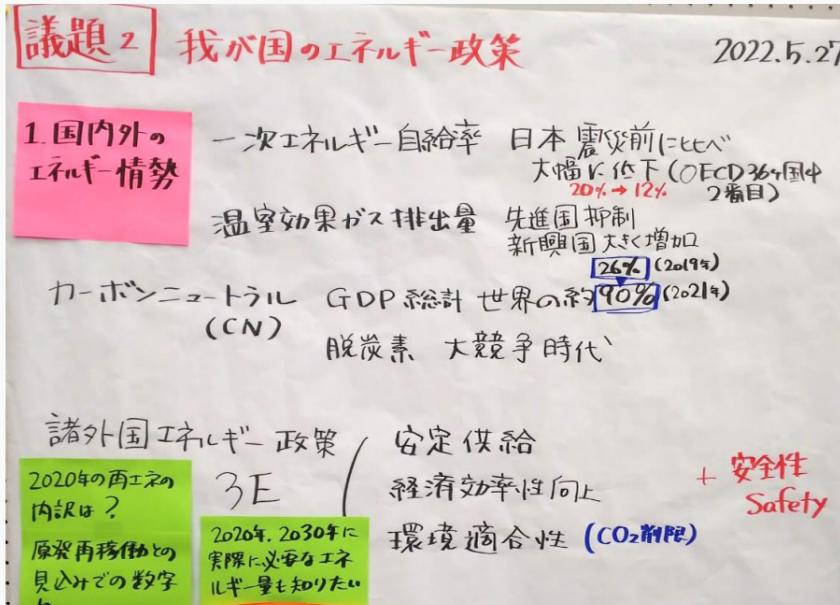
国民に理解していただくための対話、分かりやすく丁寧な広報・広聴活動などを、引き続き、全国で行っていく。



第10回「対話の場」の様子

## <会員からのご意見>

- ロシア・ウクライナ問題を受け、電気代が高騰する今、エネルギー政策の方向性をきちんと伝えることが国の責任。国民が困らないよう、国の責任として取り組んでほしい。
- 国はもっと水素エネルギーの開発に力を入れるべき。
- 再生可能エネルギーが増えない一番の問題は、送電線だと思う。原子力発電がベースロード電源と位置付けられているため、現在停止しているにもかかわらず、送電容量が確保されてしまっている。原子力発電の稼働をやめれば、その分の送電容量を再生可能エネルギーに回すことで増えるのではないか。



いただいたご意見やご質問は、NUMO寿都交流センターに掲示してあります。  
(NUMOホームページでもご覧いただけます。)

## <今後の活動に関する会員からの提案について>

- 対話の場などの「公開の場」ではなく、気の合う仲間が集まって意見交換したほうが、活発に意見が出て盛り上がる。
- 地層処分事業だけでなく、寿都町の将来を考えるためにも、少人数のほうが、いろんな話ができる。また、少人数グループでの意見交換の結果を、対話の場で報告するやり方もあるのではないか。ぜひ、少人数グループ活動を推進したい。



少人数グループによる視察や勉強会など、“まずは何かやってみる”ということになり、具体的な相談や調整を、適宜行っていくことになった。

「対話の場」における配付資料や映像などは、NUMOホームページおよびNUMO寿都交流センターでご覧いただけます。また、記録したDVDもご用意しますので、ご希望の方はお気軽に、寿都町対話の場事務局（NUMO寿都交流センター）までお問い合わせください。



原子力発電環境整備機構(NUMO)  
<https://www.numo.or.jp>

■NUMO トップページから、以下の順にクリックしてください。  
「文献調査の状況」→「文献調査実施中の地域」→「寿都町」→  
「これまでの経緯」→「2022年5月27日 対話の場(第10回)を開催」

NUMOホームページはこちら

NUMO

検索

お問い合わせ先：原子力発電環境整備機構 NUMO寿都交流センター E-mail: [suttu@numo.or.jp](mailto:suttu@numo.or.jp)

〒048-0401 寿都町字新栄町113-1 (TEL)0136-75-7576 (FAX)050-3512-1728

(開館時間：平日10時～17時)